

## 芦生からの便り 第7回



こんにちは！芦生研究林です。  
新緑の美しい季節になりましたね、皆さん、お元気ですか？  
ゴールデンウィークは、どうされましたか？  
ゆっくり、休養が出来たのなら、良いのですが。

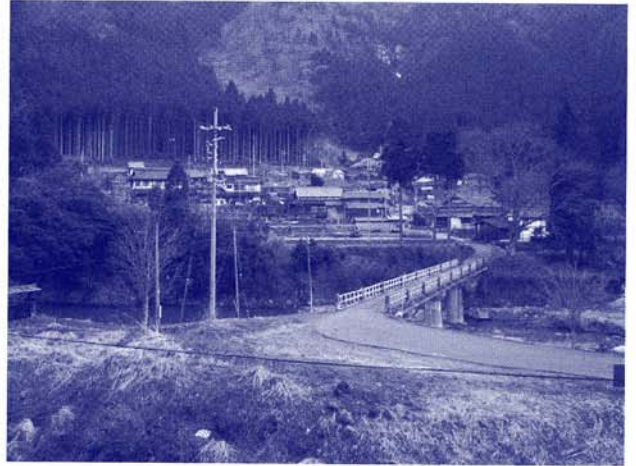
さて今回は、芦生研究林のある美山の地元について少しお話ししたいと思います。

今は、美山町は南丹市美山となりました。  
この美山は町のわりに面積が広く、その為、「ここ」という中心はなく、いくつもの集落が独立したような形で点在しているように見えます。

この間、家内に「美山の人の気質の特徴、ってある？」と聞かれたのですが、一言では言えない、集落ごとの気質というか、文化があるような気がします。

ちょうど、スイスはアルプスの谷ごとに文化や習慣がある、と言われているような、そんな感じを受けるのです。  
ですから、「美山の人は…」とは、一言で言えない私です。

そんな中、美山の自然に惹かれて、移り住んだ人が多くいるのは美山全体の特徴の一つと言えるのかもしれませんが、移住者が多いのは、自然豊かで都会からも比較的近い、という事が幸いしているのでしょうか。奥さんと子供さんとが住んで、旦那さんは都会でサラリーマン人生。週末には、美山に帰って来る、という方も。美山には、なかなか個性派揃いの移住者が、沢山いらっしゃいます。(笑)  
その移住者の個性を上手く取り入れて、風通しの良い美山を造っているのが、地元の人ではないかと思えるのです。



田歌の集落

一つの例をご紹介します。

芦生研究林の近い集落に「田歌(とうた)」という所があります。

そこには、ウベ・ワルターさんというドイツ人のアーティストが住んでいます。

本人曰く、「川のそばの木と木の間を綱渡ししながら、川の音に合わせ、尺八を吹く。そんな“間(ま)”の精神を体験する、独自のやり方を実践している(注1)」そうです。

我々日本人が、忘れかけたものを思い起こさせてくれる貴重な人物です。

かと言って、彼は、哲学的な気質でもなく、気さくで明るい。そのため、映画に出るといったこともされているようで、その活躍は無限ですがー。(注2)

その集落「田歌」に住む職員が、研究林にあります。

根っからの地元っ子です。その彼は、ワルターさんが映画に出た時、京都市内に自宅がある私よりも はるかに早く、京都市内の映画館迄 その映画を見に行きました。

知り合いが映画に出るから、「仕方ないなあ～、行って観なければ…」という感じのウキウキしたノリで！

ワルターさん あのとどちらかと言えば、面倒臭がり屋の彼が、と驚いたのは私。

しかし、そんな関係が自然に造り出されているのは、集落ごとの、ではなく、美山全体の特徴の一つと言えるかもしれません。奥深い山里だから、人口が減ったから、特徴ある美山にしたかったから…。

外野は、何とでも言います。

しかし、美山の人達が、心底、保守的であったのなら、今の美山はなかったでしょう。

また、それを良い意味で 嗅ぎつけた人達が移り住んだのではないかと考えています。

集落ごとの文化・習慣を保ちながら、全体としては新しい風を呼び込んでいく。

まだ、美山に触れたことのない方は、これを機にぜひ、美山の色々なイベントを体験なさっては如何でしょうか？(注3)

(文：芝 正己)

(注1) その姿はワルターさんのHPでご覧になれます。 <http://www.uwestory.com/>

(注2) 松平 健、プールノ・ガンツ主演の映画、「バルトの楽園」ドイツ人の捕虜で植物学者“パウル・ホルスト”の役

(注3) 京都・美山ナビ(美山町観光協会) <http://www.miyamanavi.net/> で詳しい情報が貰えます



ワルターさん

### 著者プロフィール

芝 正己(しば まさみ)

京都大学フィールド科学教育研究センター(森林環境情報学研究分野 准教授)所属。

京都大学および宮崎大学・三重大学を経て1997年10月より現在に至る。

専門は、森林利用学、森林管理・情報学。

これまでの主な研究テーマは、

- ① 森林の経営基盤整備計画・評価法に関する研究、
- ② 持続可能な森林管理と森林認証制度に関する研究、
- ③ 森林の資源利用と保全計画に関する研究。

